

慶應SFC学会

A. 研究成果発表(学会発表)

成果報告書

報告書:鈴木 琴子(慶應義塾大学総合政策学部4年)

活動名:学生主体の学びのコミュニティ再建と新たな試み:慶應義塾大学のフランス語研究室のSA制度活動事例

活動期間:2025/3/26-30352/27

活動場所:関西日仏学館(大阪) 大阪市北区天神橋2-2-11 阪急産業南森町ビル9階

発表形式:口頭発表

1.活動概要

フランス語研究室のSAは、フランス語の履修者や研究室を訪れる学生をサポートし、学習相談や教材準備、イベント運営など、研究室の活動全般を支える役割を担っています。

SAメンバーは、フランス語学習に関心を持つ学生に限らず、異文化交流や教育支援など、さまざまな分野に興味を持った学生が集まり、互いの視点を活かして活動しています。

フランス語研究室は、フランス語を学びたい学生にとって学内の重要な拠点となっており、学生が授業外でも自由に訪れて学びを深める場を提供しています。ここでは、教員と学生の距離が非常に近いことが特徴です。

2.発表内容構成

①フランス語研究室でのSA制度の紹介

②フランス語研究室の特徴、メンバーの紹介と多様性

③2024年秋学期からの活動概要

SA制度の運営において、メンバー間での連絡ツールの使い分けや、役割分担の方法についてお話ししました。連絡手段がどのように円滑なコミュニケーションを叶えているのか、また各担当者が異なる役割を持ち、それぞれの持ち回りの仕事をしている旨を伝えました。イベントは、フランス語学習を深め、来室者を増やすことを目的として開催されており、その過程でSAメンバーは一人一企画を開催することでノウハウを養うことができます。また、TAとも協働して、研究発表会やその他のイベントをサポートしています。

④SNS運営とコミュニティ拡大

研究室のSNSアカウントでは、イベント情報の発信や、コミュニティ拡大を目指す活動が行われています。特に、シフト表を投稿、QRコードを使ったフォロワー増加の施策や雰囲気わかる写真を載せるなど身近に感じてもらう投稿を心がけました。

⑤SAの仕事の中で工夫した点、改善点、問題点

SA制度を通じて、さまざまな工夫を凝らし、学内での活動を改善してきました。この過程では、イ

ンタラクションパートを取り入れ、会場の参加者にも問いかけ、解決策を予想させることで、より参加型の発表をメインとした。

⑥教員からのコメント

教員からは、SA制度や学生アシスタント活動について、世代差による考え方の違いを理解する重要性が強調されました。また、学生にどこまで活動を任せるべきか、管理者としての視点の共有のお話をして頂きました。

⑦来学期の構想

来学期に向けては、前年度を踏襲しつつもフランス語研究室の内部の改善が予定されています。今後の活動に合わせて、学生にとって有益な情報を提供できるようなことを模索しています。

3. 発表で得られたフィードバック

口頭発表では、ケーススタディを用いた課題解決案を盛り込んだことで、多くの先生方から貴重なご意見をいただきました。

一つ目の「コロナ前の活気を取り戻す」という組織基盤の課題に関しては、高評価をいただくとともに、「基盤を作るための忍耐の時期」との励ましのお言葉も頂戴しました。

二つ目の「フランス語研究室の来室者を増やす」という課題についてもいくつかの改善策を考えるきっかけとなりました。例えば、初回講義で研究室の案内をするだけでは不十分であることから、授業時間内に研究室へ訪問する時間を設けたり、ボードゲームを用いた授業を研究室内で行い、学生にフランス語研究室の存在や雰囲気をもっと身近に感じてもらえるよう工夫する案が浮上しました。さらに、他の教育機関の事例も参考にし、学生がフランス語のネイティブスピーカーと気軽に会話できる環境を活用するため、週ごとに学生が研究室を訪問するような課題を授業内で与え、次の授業で発表させる仕組みを導入する案も出ました。これにより、学生が自然にフランス語研究室に足を運び、会話練習を通じてフランス語への親しみを深めることを狙っています。

三つ目の「フランス語を用いて活動をしている大学間の交流」については、お互いの大学内で「フランス語履修者全体に情報が十分に共有されない可能性」をご指摘いただきました。大学外でのフランス語交流イベントの実施、そして集まるだけでなく、**参加者が積極的にフランス語を使って交流することが大切だ**と指摘されました。フランス語を使ったアクティビティを取り入れることで、自然な形でフランス語を活用する場にする工夫の案が出ました。

3. 謝辞

この度は、RPK2025_関西フランス語教育研究会への参加に際し、貴重な補助を賜りましたこと、深く感謝申し上げます。おかげさまで、現地での活発な意見交換の機会を得ることができました。この貴重な経験を研究室内で共有し、さらなる研究室の質の向上を図ることで、フランス語研究室を一層魅力的で発展的な場へと育てていきたいと考えております。改めて、SFC学会の皆様のご支援に厚く御礼申し上げます。